

令和4年2月19日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 令和4年度 第2回

世の中の変化

コロナで色々な生活習慣が変わりました。マスクは当たり前になりましたし、何かの集まりでも食事はしない事がごく普通に受け入れられるようになったと感じています。デジタルの視点も入れると、どんどん世の中が変わってきているのだと改めて思っています。

具体的なことを申しますと、スマホを使うことが当たり前になりました。先日、シムックスの懇談会で或る営業所に行きました。懇談会では様々な質問が出るのですが、20代の社員から今までにない質問が出ました。会長はスマホにどんなアプリを入れて使っているかという質問でした。一瞬驚きましたが、健康に関して必要なアプリを入れて心拍・血流・歩数・睡眠を計測し毎日チェックしていると答えました。他にどんなアプリを使っているか考えると、スマホは常に位置情報をつなげているし、新幹線の時刻表や地下鉄の乗換ナビを使っています。また、最近はiPadも持ち歩くようになりました。画面を開くと自動的に使いたいものが出てくるようになっていきますし、文章の入力も入力ナビでよく使う言葉が表示されるようになっていきます。昔、ワープロを使い出して少し経った頃、「パソコンが使える者は会社を去れ」と言った事があります。その時、私はパソコンがまるっきり分かりませんでした。今も分かる人から見れば、私はまるで分からない部類に属すると思いますが、辛うじてスマホやiPadを使うようになりました。これも生活習慣が変わった大きなことの一つです。

そういった生活習慣が知らず知らずのうちに身に付いて来るという事は、その背後に、便利で使いやすいような物を考えて、その仕組みを作る人たちがいるわけです。そういう人たちは相当お金が稼げるし、そういった製品を作る人たちも同じく沢山のお金が稼げるわけです。言い方を変えれば、人間がものを考えなくなればなるほど、バカになればなるほど、GAF Aのように稼げる人たちが沢山出ると感じています。それらが進んで行く所はいったいどこでしょうか。

先日マトリックスという映画を見ましたが、こういう世界も充分あり得ると感じました。ちなみに私が見たのは3作目で、仮想空間の中でリアルに生きる社会になりつつあるのだと感じました。ちなみに、マトリックスは1作目と2作目を見ていませんでしたのでDV

Dを借りに行ったのですが、かつてよく行った書店にはもうDVDはほとんどなくなっていて、在庫処分をしていました。少し行かない間にレンタルビデオ店もまるっきり様変わりしていました。

最近見た日経新聞の記事をご紹介します。その中で紹介されていた人物は、朝起きたら午前中は仮想空間の中のオフィスに出勤し仕事をする。仕事が終わると仮想空間から出て、午後はプライベートを家庭菜園で過ごすとありました。その会社が最初に仮想オフィスを始めた頃は数百人しかいなかった利用者が、今は18ヶ国で7万人に膨らんだという記事でした。1日24時間の間、3分の1が睡眠、3分の1が仮想空間の中、残り3分の1が通常の生活というスタイルがだんだん普通になって来るのだろうと感じました。となると一度、仮想空間の中に入って体験することもしなければいけないと最近感じています。

懇談会ではもう一つ、こんな質問がありました。アニメは何が好きですかという質問でした。20代の人からすると、もうアニメが生活の中に入っているので、当然私も見ているだろうという前提でした。尤も、アニメの素晴らしい作品を生んだ日本に行ってみたいという観光客がどんどん増えている訳ですから、頷けますね。

ということで、世の中はと気がついたらどんどん変わるのだ、と社員の質問で感じた次第です。

昨日、新しい免許証の受け取りに行ってきた。運転免許証の裏面には、臓器提供意思確認が書いてありました。家に帰ると後期高齢者用の健康保険証が届いておりまして、その裏にも同じことが記載されていました。世界には臓器ビジネスなるものがあります。国家が臓器ビジネスに手をつけるわけにはいかないが、無償で提供して戴けますか・・・とばかりにこれだけ進め出したという事は、政府は今、どちらの方向に向かって進んでいるのかなと気になりました。

政府が推進するもので表面的に口当たりの良いものは、基本的に私は信用しません。政府が言う理由は何なのか、やはり一歩退いて考える必要があると思います。少し前は、マイナンバーに対する不信感がかなりありました。マイナンバーに健康保険証や免許証を紐付けるなどとして政府は普及を進めていますが、行きつく所は何度もお話ししている通りです。昭和21年2月17日に緊急金融措置令が出て、義務として保有財産を申告させられました。その後は、富裕層には最高税率90%、一般家庭でも驚くような税率で困窮家庭に至るまで残らず税金を取られたわけです。マイナンバーが普及すれば、国民全員から政府が取りたい金額を取りたい放題取れる。そのように私はマイナンバーを受け止めています。したがって、最近の政府の勧めるものは皆、嫌だという反応ばかりになっています。

コロナワクチンについても同じです。1回目、2回目の接種は一気に接種率が跳ね上がりました。9割がたの人は打っているわけです。しかし3回目の接種率は一気に落ちました。ご存知の通り、特に2回目の接種後に副反応が出て、高熱や痛みを自分の身体で感じたがために、3回目はちょっと様子をみたいということなのでしょう。それに関して政府は何も説明しません。それどころか新しい接種会場を設けたとか、3回目の接種を懸命に呼びかけています。

なぜ接種率が上がらないのかメディアが調べた結果、3回目を打ったらとんでもない副反応が出るのではないかという不安感が増大していたのと、政府に対する不信感が増した結果だという解説が始まりました。おそらく来月か再来月くらいには、接種した後にどういふ副反応が出たかを細かく報道すると思います。接種した翌日に亡くなった人や、1週間くらい経って亡くなったという人も出ています。コロナワクチンの接種が原因で亡くなったと思われる人は1400名ほどいるとメディアでも流れるようになりました。私はこの数は、どうにも隠しきれない数が1400人で、視点を変えてカウントするようになってある程度の時間が経てば、ゼロが1つ増えてくるのではないかと思っています。

ちなみに、副反応について再度お話しします。政府が3種混合ワクチンを国民の義務として国民に打たせた。その結果、大変な副作用が出て各地で裁判が起き、政府が負けたわけです。その後、ワクチン接種による副作用は「副反応」と呼ぶことが政府で決められたようです。国民は「副反応」というおかしい言葉を聞かされ質問しても、政府はまともに答えずに現在に来ていますが、調べればすぐに分かることです。

ということで、政府が「これをやりなさい」と勧める時は、どういう考えがあって押し付けているのかと考える習慣が最近とみに強くなりました。

もう一つ、政府が強烈に進めているのはデジタルです。デジタルを進めることは国民にとって良い事だ、進めなければ世界に遅れをとる、ということで一所懸命旗を振っています。デジタル自体は問題はないのですが、それをどう使うか、扱い方が今問われていると思っています。

論語解説

では、レジュメにもどって論語に参ります。本日は子張篇の25です。

【二十五】 陳子禽 子貢に謂いて曰く、子 恭を為すなり。仲尼 豈子よりも賢らんやと。子貢 曰く、君子は一言以て知と為し、一言以て不知と為す。言は慎まざるべからざるなり。夫子の及ぶべからざるは、猶 天の階して升るべからざるがごとし。夫子にし

ほうか え いわゆるこれ た ここ た これ みちび ここ ゆ これ やす ここ
て邦家を得ば、所謂之を立つれば斯に立ち、之を道けば斯に行き、之を緩んずれば斯に
きた これ うご ここ やわら そ い さか そ し かな これ いかん そ
来り、之を動かせば斯に和ぎ、其の生けるや榮え、其の死するや哀しむ。之を如何ぞ其
およ
れ及ぶべけんやと。

陳子禽は孔子から見ると 40 歳若い、子貢より 9 歳若いお弟子さんです。かなりの年齢差がありますから、おそらく陳子禽にとっては大先生が孔子で、直接の先生が子貢という間柄だと感じます。

陳子禽が自分の直接教わっている先生である子貢に質問をしました。

「先生は謙遜しておられますね。大先生は遠くの方に見えているからあまり偉そうに見える。それよりは色々教えて貰っている子貢先生の方がはるかに素晴らしいのではないかと私は思います。」

子貢が言いました。

「君子はその一言で見識を持っているか持っていないかを判断されるものだ。お前は言葉が行き過ぎるから、もう少し慎重に話をしなさい。私からみて、孔先生は及びもつかない方なのだ。お前が天に届くような梯子を探して登っても、決して登れないのと同じだ。もし、先生が一国の采配を揮うようになれば、民の心を奮い立たせて業を発展させるだろう。民を教え導けば、民は自然と先生の言葉に従う。民に安心を与えれば、遠くの民も集まって来るだろう。徳をもって民の心を感動させれば、民は和らぎ親しみを覚える。先生が活着ている間はその国は榮え、亡くなれば人々は心の底から悲しみ嘆くだろう。そのような大先生に対して、どうして私が及ぶことができようか。」

・・・自分の浅知恵でものを言っははいけないよ、と弟子の陳子禽に対して細かく論じたわけです。

今の時代に置き換えて考えてみると、残念ながら現代ではそういう大人物はいませんね。悲しい部分だと思います。しかし幸いにして日本は歴史上の人物で素晴らしいと思う人がかなりいますから、そういう人物と比較しながら、近いような人を現代に探せばよろしいだろうと考えています。

素晴らしい人物を探すということで、西郷隆盛についてお話します。西郷隆盛は 13 歳で元服をしています。10 代から 20 代にかけては郷中教育を叩きこまれ、懸命に勉強をしました。24 歳で結婚をしています、その年に祖父・父・母が亡くなり、翌年 25 歳で家督相続

をしています。20代は自分を磨いていた時代です。薩摩藩で一生懸命仕事をしてだんだん認められるようになり、20代後半は君主の島津斉彬に認められ、引き立てられました。人間的にもどんどん磨かれて、社会的にも名前が通っていきました。

ところが30代前半は天国と地獄を味わいます。30歳の時、島津斉彬が亡くなりました。31歳で奄美大島に流され、そこで愛加那という島妻と二度目の結婚をし、とても幸せな新婚生活を送りました。本人の一生の中で、一番ほっとした和やかな良い時代だったと思います。33歳で呼び戻されますが、また沖永良部島へ流罪になります。ここでは生きるか死ぬかの苦しい辛い目に遭いましたから、まさに地獄です。しかし地獄の苦しみを味わったがために、その後の復帰があるわけです。36歳で現役に復帰し、40歳まで大活躍をしました。

西郷隆盛の生涯を眺めると、36歳から40歳までが大活躍をした時期で、あとは全部おまけです。36歳から40歳までは明治維新を成功させるべく必死の動きをしました。その結果、江戸城の無血開城を成し遂げたのが40歳、そこが西郷の一番頂点だったと思います。その後は、自身は隠居したいと思っていたわけです。37歳で結婚した3番目の奥さんの糸に、一段落したら隠居して田舎に帰るといって手紙を書いています。現実には無血開城の後は田舎に帰ったわけですが、明治政府から呼び出されて江戸に戻ったり、また田舎に帰って上野の銅像のような恰好で狩りを楽しんだりしました。ですから40代前半が隠居願望で、後半は政争に敗れ、死に際・死に場所探しのような動きで、最終的には49歳で亡くなっています。西南戦争の最中、流れ弾に当たって「もう、ここでよか」と言って自決しています。ですから西郷隆盛の一生は、36歳から40歳までが一番輝いた時代です。

翻って、皆さんが一番輝いて充実している、或いは充実した時期はいつでしょうか。ご自身を振り返って、あの時は輝いていたなと思う時が誰しもあると思いますが、これから先も充実して輝く時代が来るのだと思って生きている方が楽しみですね。これからあれをやる・これをやると予定を組んでいる人の方が、やはり輝いて見える気が致します。80代になっても90代になっても、これから輝くのだ！これで私は輝く！と思える自分でありたいと私は思いますし、皆様も描いて欲しいと思っています。

スタグフレーション

これまで何度かスタグフレーション（不況下における物価高）についてお話してきました。だんだんその足音が近づいて、危なくなってきたと感じます。皆さんはそう感じているでしょうか。

ご存知のようにガソリンはべらぼうに跳ね上がったし、エネルギー関係はどんどん値上

がりしていると実感できます。食べ物も現実にも、嫌になるほど上がっています。少し前は金額は上げずに中身をこっそり減らしているものが多かったと思いますが、最近は堂々と値上げをしていますし、中身も減らしています。ですから想像以上にお金の価値が下がったと実感しています。食べ物以外にも電気製品や諸々の値段が上がっています。

おまけに金利ですが、世界は金利を上げる方向で進んでいますから、そうすると日本も上げざるを得ません。本当に日本の金利が上がり始めたら、国の息の根を止めることになります。息の根を止めるまではいかないような値上げで止めるのだらうという気はしますが、何かのきっかけで爆発する。戦争もそうですが、そういうものがひたひたと我々の生活を更に苦しめる状況に入ったと思っています。ですから、これからメディアでスタグフレーションという特集が組まれると思いますし、その解説も始まると思います。

よく食べ・よく動き・よく眠る

前から私は備蓄をお勧めしていました。今は、備蓄したものを廃棄せずにすむようなサイクルを作って、消化できるような流れに自分自身の意識も変えて、生活習慣も変えて、会社の仕組みも変えて・・・という時代に入ったと思っています。ちなみに、私は赤城に保冷庫を買って米を備蓄し、常時そこから出せるようにしました。

今はコロナで陽性になった自宅療養中の人に対して、要請があれば自治体が食料や飲み物を送る事になっています。しかし本当に必要なものが届くのかといえば、そうではありません。現在あるものはそのままとして、これから用意しておくものを申します。自分がコロナに罹った時に必要な食料品として私が意識しているのは、コロナに罹った場合には飲み込むことが大変になりますから、流動食のような喉の通りがよいもの、食べ易いもの、水分が多いものです。ですからコロナに罹った場合の食べ物と罹らない場合の食べ物、両方を用意する必要があると思っています。

オミクロン株は感染力が強くて重症化しないという事ですが、感染力が強ければそのうち自分も罹るという前提で対応しなければいけません。一人が罹れば、家の人皆うつると思った方がよいでしょう。それが社会全体に広がった時には、当然亡くなる人が増えます。コロナに対する考え方がガラッと変わるのは、死亡者が急激に増え始めた時です。それが、社会一変の時です。世界各国を眺めていて、重傷者ではなく死亡者が急激に増え始める時期があると思います。その時が分岐点です。その何ヶ月か後には日本でも同じ現象が起きる。そうなったら初めて、コロナの第二波が世界的に始まったと捉えて、それなりの動き方に変えざるを得ないと思っています。

特に対面の業務についている人は、どうすればコロナに罹らずにすむかという視点も、

一つしっかり持つておかなければいけません。それは前から申し上げているように、よく食べ・よく動き・よく眠ることです。これが満足に出来ていればコロナには罹らないし、罹ったとしても軽症ですむと思っています。

食べて・動いて・寝る・・・簡単に聞こえますが、具体的にどうすればよいか、少し申し上げます。今朝も山崎流棒術の稽古をしましたが、終わった後はお腹がすいて、お腹がすいて、おにぎりを食べたらとても美味しかった。つまり食べる前に動くことが肝心です。食べてから動いたのでは、逆効果です。身体を動かして、お腹が減ったという飢餓感を感じるような動きをしておかないと、身体に良い影響はないと思っています。食事については、私は目の前に出て来た食事の分量がどれくらいか、塩分はどれくらいか、だいたい分かるようになりました。食事量や塩分量、水分量を毎日記録しています。食事量は一日で2000~2500gくらい、塩分は6.5~7.5gくらいです。睡眠時間は深い眠りか浅い眠りかによって変わってきます。同じ6時間、7時間の眠りでも、ぐっすり寝ている人は回復の度合いが良いですね。

恒例の質問

では、恒例の質問に入ります。手の挙げ方もそれぞれですが、やはり真っすぐ挙げた方が気持ちが良いと思います。

- 今年になってから、良い日が続いていると思う方
- 今年になってから、ほとんど嘘をついていないし、嘘もつかれていない方

皆さん手が挙がりました。そうすると政治家は毎日嘘三昧に見えますから可哀そうですね。

- 今年になってから、有難うと言ひ、有難うと言われることが多い方
- 今年になってから、身体の手入れをどんどんやっているという方

手の挙がらない方が何人かおられます。是非、身体の手入れをお勧めします。

- 今年になってから、自分磨きをよくやっている方
- 昨晚寝る直前、<〇〇が出来て良かったな> と思って眠った方

明日やる事、したい事でも結構ですから、それが<出来て良かった>という場면을イメージして眠れば宜しいと思います。

令和4年を考える

今年は壬寅（じんいん・みずのえとら）です。私が気にしているのは、岸田首相が虎変するかどうかです。「君子豹変し、大人虎変す」という言葉があります。虎の毛が生え変わる時、目も眩むような鮮やかな色になる。それを人間に喩えて、「大人虎変」という言

葉が生まれました。今までやって来た仕事ぶりと比べてまるで違う、切れ味鋭く見違えるような状況になった時は虎変です。

○**人が世に出るチャンス**の年・・・キーワードは、デジタルを如何に自分のものにしていくかだと考えています。私自身で考えているのは、仮想空間に入らなければいけないと思っているので、一度チャレンジしてみたいと思っています。

○**コロナとは共存**・・・コロナに関しては、人が亡くなるような強毒性のものにいつ変じるのか、それが気になってなりません。ころっと逝ってしまった時には、自分のやりかけたものがそのまま止まってしまったのでは困りますから、次の人を育てることが必要です。

○**次の人を育てる**・・・命は有限ですから、自分のやっている事を次にバトンタッチする人間を意識して育てていかなければいけない。そういう事を考える時代に入ったのだと思います。これは若い人でも同じです。これからの時代は、命が簡単になる時代だと私は受け止めています。誰も自分が死ぬなどと思っははいないわけですが、これだけコロナで騒いで亡くなる方が多いわけですから、自分が亡くなった時のことを考えて、次の手を打つ。次の人を育てる。これはやはり必要なことだと思います。

先ほどお話した西郷隆盛は、49歳まで生きましたから長生きです。明治維新の志士たちの有名どころは大体20代で亡くなっているわけです。それを考えたら、今は長生きをしているなあと感じます。

お時間になりました。最後に申し上げることは、今は本当に命が軽くなっています。是非、ご自分の命を大事にして、よく食べ・よく動き・よく眠る、これを実践して戴く事でお互いもう少し命を永らえましょう。

以上で、本日の講話を終了致します。有難うございました。